

『葉っぱのフレディ～いのちの旅～』

■私は大人になって、この絵本に出会いました。何度、読み返しても心に染み渡る深い内容です。今月の初めに旅立たれた M さんに関わらせて頂いている時、心と「葉っぱのフレディ」の絵本の一節を思い出していました。この絵本を自分の力で「考える」ことをはじめた子どもたちと、子どもの心をもった大人たちに贈ります。

※わたしたちはどこから来て、どこへ行くのだろう。生きるとはどういうことだろう。

死とは何だろう。人は生きているかぎりこうした問いを問い続けます。この絵本が自分の人生を「考える」きっかけになってくれることを祈ります。この本は、アメリカの著名な哲学者レオ・バスカーリア博士が書いた生涯でただ一冊の絵本です。(編集者より)

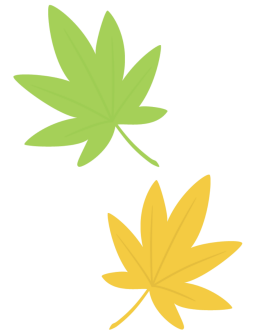
☆☆

「僕もここからいなくなるの?」「そうだよ。僕たちは葉っぱに生まれて葉っぱの仕事を全部やった。太陽や月から光をもらい、雨や風に励まされて、木のために他人のためにも立派に役割を果たしたのさ。だから、引っこすのだよ」と、ダニエルは答えました。

「ダニエル、君も引っこすの?」 「僕も引っこすよ」

「それはいつ?」 「僕の番が来たらね」

「僕は嫌だ!僕はここにいるよ」とフレディは大声で叫びました。



中略……

「引っこしするとか、ここからいなくなるとか 君は言っているけれど、それは…」

と、フレディは胸がいっぱいになりました「死ぬ ということでしょう?」

ダニエルは口をかたく結んでいます。「僕は死ぬのが怖いよー」とフレディが言いました。

「その通りだね」とダニエルが答えました。

『まだ経験したことがない事は怖いと思うものだ。でも考えてごらん。世界は変化し続けているんだ。変化しないものは1つもないんだよ。春が来て夏になり秋になる。葉っぱは、緑から紅葉して散る。変化するって自然なことなんだ。君は春が夏になる時、怖かったかい?』

緑から紅葉する時怖くなかったろう?ぼくたちも変化し続けているんだ。

死ぬと言うのも変わることの1つなんだよ』

■ご自身の死期を敏感に捉えていたMさんが、
「ぼくは死んだらどうなるんだろう」とポツリと話されたことがありました。
ご本人の承諾を得て、本人の言葉をたくさん書き留めさせて頂きました。

■私たちは、看護観はもちろんのこと、死生観（人生観）、倫理観、
そして自分の哲学をしっかり持って、かけがえのない「看とりの時間」を
幸せな最期としてプロデュースするために、共に学び続けていけることを願います。



今月もありがとうございます。お疲れ様でした。

2025年5月9日 呉 静恵

